

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 9, No. 3 神奈川県立 生命の星・地球博物館 Sept., 2003



ヒマラヤの温室植物

セイタカダイオウ(タデ科)

Rheum nobile Hook.f. & Thoms.

インド シッキム州、シッキム・
ヒマラヤの標高 4300 m にて
右上：Danphebir 峰 (4631 m)

右下：苞葉をどけると花が見える
勝山輝男 (学芸員)

2003年6月19日から7月9日の約3週間、インドのシッキム州に植物調査に行きました。標高4631mのDanphebir峰の近くでセイタカダイオウ *Rheum nobile* に会うことができました。写真の個体は高さ60cmほどでしたが、大きなものは高さ1.5mになります。下方の緑色の葉はロゼット葉、上方の黄白色で半透明なのが花を被う苞葉です。苞葉をどけると小さな花がびっしりと

咲いていました。半透明の苞葉が温室のような働きをして、中の花を高山の低温から保護しているといわれています。ヒマラヤの高山帯ではこんなに大きくなる植物は他にないので、遠くからでも発見することができます。朝、霧が出ないうちにキャンプ地から双眼鏡で探し、その場所を目指して登りました。(→20-21ページに関連記事)